

# もみじ

— 広島県山岳連盟会報 —



一般社団法人 広島県山岳連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

## 日本山岳協会平成 28 年度自然保護委員総会

山岳自然保護の集い中央大会報告書

普及部 理事 福永やす子

### 山岳自然保護に対する再認識を

自然保護委員総会が去る 9 月 3 日から 4 日、下記の開催目的で代々木のオリンピック記念青少年センターで行われた。

**開催目的:** 各県持ち回りで行われていた委員総会を(平素の山岳自然保護の活動発表や討議情報交流)山岳自然保護に対する認識を再確認する事と自然保護総会の第 1 回目が 1997 年に岸記念体育館で開催され今年で 40 年を迎えた事で中央大会が開催された。

**大会のテーマ:**「大都市に息づく 100 年の森に集う」  
予定されていた 12:35 頃の各県の委員長会議は主催者側の都合で中止となり 13:00 頃受付で全国 27 団体 73 名の参加者で自然保護委員総会会議は進行した。

開会宣言の後、八木原日本山岳協会会長、松隈自然保護委員長長の挨拶があり基調講演から始まった。

#### 基調講演:

「山岳自然とライチョウの保護活動と現状」

講師: 東邦大学 小林篤 氏

今回の講演、アルプスで遭遇するライチョウの貴重な情報を得たので一部を報告します。ライチョウの世界生息分布は北極圏周辺に生息し日本が南限で最終氷河期に大陸から南下し本州中部のアルプスにかろうじて生息している。日本に棲んでいる正式な名前は

本ライチョウで他の集団とは異なる日本の高山環境に適応した特徴を持っており、個体数が減少していることから環境省は 2012 年から特別天然記念物・絶滅危惧種 I B に指定し様々な保全策が取られている。日本では標高の高い北アルプス(1104 羽)御嶽山(70 羽)南アルプス(306 羽)では減少し、火打山(28 羽)乗鞍岳(145 羽)と少し増加傾向にあり現在の生息個体は 1,700 羽程度である。

#### 地球温暖化により高山帯に侵入

「雷」鳥の由来は 1708 年京都火災のおり後鳥羽院の和歌とライチョウの絵を飾った建物のみ焼けなかった。⇒ライチョウが描かれた札が家事や雷除けのお守りとして普及し江戸中期から「雷鳥」として定着していた。外国では現在も多く地域で狩猟鳥されている。日本は稲作文化で奥山は神の領域でライチョウは神の鳥で人を恐れない。欧米では牧畜文化でライチョウの住む高山まで人の領域でライチョウは狩猟鳥で人を恐れる。日本ライチョウが高山からいなくなる事は日本人が築いてきた文化を失うことになる。地球温暖化により本来低山に生息する動物が高山帯に侵入して来ている。(猿、ハシブトカラス、チョウゲンボウ、狐、テン等) また、高山にイネ科植物も増殖している。

現在、ライチョウの域内保全や域外保全で 2014 年から乗鞍岳で個体群研究や 2015 年から減少の激しい北岳での保護活動が進んでいる事の報告があった。改めてライチョウが減少傾向にならないよう温暖化

対策に各自意識を向けたいと感じた。



写真提供 福永やす子

講演後、平成 27 年度の事業報告・次年度の事業計画があり各都道府県の活動報告に入った。

### 各都道府県の活動報告

\*詳しくは日山協ホームページを参照：下線は山の日関連行事

岩手県：岩手山避難小屋の適正管理と環境整備、冬の薪の荷揚げ活動、八合目～頂上への外来種駆除（西洋タンポポ）、ジュニア育成の登山教室

茨城県：筑波山・神峰山・高鈴山各清掃登山、県内河川 2 ケ所の水質調査（COD・水温）

栃木県：日光・那須清掃登山、ファミリー登山教室

群馬県：尾瀬ゴミ持ち帰り運動、自然観察&美化運動

埼玉県：日本山岳協会から松隈氏を招いて「出前講座」、**関東ブロック総会（初開催）**

千葉県：鋸山自然観察、清掃活動、希少植物の報告

東京都：カタクリ被害パトロール、雲取山調査山行年 2 回、自然観察会、携帯トイレ紹介

神奈川県：クリーン活動（行政・市民の連携）昨年累計 9 4 回 626 名、丹沢山 再生活動、県委託事業（登山者カウンター調査）

山梨県：山岳レンジャー活動、荒天時対策で雨宿り出来る上屋等整備支援、「保護と活動」の目的を踏まえ、バランスの取れた政策と支援を

長野県：八ヶ岳清掃登山、長野県自然保護レンジャー、長野県ライチョウサポーター登録で活動、ニホンジカの侵入防止とライチョウ保護

富山県：県民登山教室（白山・八ヶ岳）、自然保護セミナー、

静岡県：山梨県と共同で富士山の環境保全と整備噴火に対する施策と伝達ニホンカモシカの食害対策、高山植物保護の啓発看板、環境省公園指導員岳連 18 名県内 45 名

愛知県：自然観察会、ライチョウの生態講演

三重県：鈴鹿山系清掃登山、自然保護研修会

岐阜県：清掃登山、登山道整備、標識整備、自然観察、伊吹山登山道笹又コース要望、ヤシジャゲンゴロウ保護活動

京都府：一斉清掃登山、府民対象自然観察会、**近畿 6 府県自然保護委員会合同協議会**、

大阪府：金剛山系水質検査 4 か所、自然観察会、ナラ枯れの対策、

兵庫県：読図、自然観察会、2ha の岳連の森作り

鳥取県：大山頂上栽植保護作業、登山道整備、キャリーアップ（登山者角材持上）200 名 マナーアップキャンペーン、

岡山県：看板立、自然保護研修会、山歩き講習会、登山道整備清掃登山活動

広島県：雲月山山焼き、臥龍山登山道整備、水質検査、比婆山植物観察会&研修会

山口県：目撃レポートでツキノワグマの行動範囲、十種ヶ峰ヤマシャクヤククロープ柵設置 陶ヶ岳清掃登山

香川県：小豆島清掃ハイキング、

徳島県：ミツマタ植樹活動、剣山・三嶺山城のニホンジカ糞塊調査



写真提供 福永やす子



**9/4 分科会**

- \* オーバーユースとトイレ問題
- \* 希少植物保護、植物多様性保護の活動
- \* 自然保護活動について

**各分科会の取りまとめと意見交換**

携帯トイレ担当の方から日本山岳協会配布の登山ハンドブックに携帯トイレの項目が掲載されていない。早急に修正して戴きたいと苦言を呈しておられた。

この夏、塩見小屋で携帯トイレブースを体験した。汚物は回収しヘリで下し処理場で焼却。

⇒大量の袋の焼却⇒業者にもっとコンパクトな改善を  
⇒焼却については業者と交渉済みとの回答だった。  
⇒想像して下さい！あの膨大な汚物を・・・。

昼食後<フィールドスタディー> (大都会に息づく自然を見る)

- \* 明治神宮の森
- \* 国立博物館自然教育園

大都会での 100 年の森とはどんなものか？前者に興味を持って参加した。

明治神宮の森は 1912 年明治天皇が崩御され明治天皇を祀る神社が建設された。当時荒れ果てた荒野に林学博士本多静六、造園家本郷高德、上原敬二等三人は未来を見越して神社の森は永遠にと自然林に近い(カシ・シイ・クスノキ等の常緑広葉樹)状態の森作りに構想をねり実行した。



写真提供 福永やす子

震災、戦争と復興を重ね大都会の中心地に現在の高建築と鎮守の森が融合した人間の手で作り上げた 100

年の森を見学散策した。

**<参加しての感想>**

関東、近畿では周辺県合同の勉強会をしている報告があった。広島県でも近隣の県が一致団結して中国山地周辺の自然保護活動が出来、お互いに共有することが必要と感じました。

**トピックス****県北五山 山頂標識を整備**

広島三峰会会長 小方重明

広島三峰会は県北五山(恐羅漢山・吉和冠山・十方山・高岳・深入山)に山頂標識を設置していますが、老朽化が目立ってきましたので、会の創立 50 周年記念行事活動の一環で、春から半年かけて標柱の新設や標識板を再塗装し 10 月 2 日に全て完了しました。

山頂標識は 1985 年に深入山・吉和冠山・高岳の三山に新設し、1990 年に恐羅漢山、1995 年に十方山に追加設置しました。山頂標識は今後も大勢の登山者に愛され喜んで頂くためにも定期的に保全をしますが、どうか県北五山の山頂標識を可愛がって下さい。

広島三峰会 HP のフェースブックに、恐羅漢山の山頂標識の保全作業が、画像(音声とスライド)で見えます。



## 2年目のクライミングスクールに参加して

### ロープワークを習得したい

寺川 幸輔

私は、昨年もクライミングスクールに参加させてもらいました。

私がクライミングスクールに参加した理由は、自然の山でクラミングをしてみたい、ロープワークを習得したいというものからでした。一年間指導を受けましたが、スクールの際しかクライミングの道具を使用することがなく、1ヵ月間経ってしまうと以前にやったことを忘れてしまい、また初めからという感じでした。

一年間講習を受けましたが、自分でできるようになったのは、エイトノット等の基本的なロープの結び方で、セカンドビレイ等はどこか間違っていたりして、指導員の方の指導を受けなければできない状態でした。そのことから、自分で基本的なロープワーク等ができるようにするため今年もクライミングスクールに参加しました。

今回は、5回目のクライミングスクールで場所は三倉岳でした。最初は、実際の岩をつかったセカンドビレイの練習で、まず指導員の方にリードで登って頂き、私たち生徒が後から登っていくものでした。

私は、数年前からボルダリングのジムに通っていますが、自然の岩は、持つところや足を置くところに印が着いておらず、実際に手でふれたり、足を置いてみないとどのようなところか分かりません。

そのために普段行っているジムと比べてすごく難しく感じてしまいます。

何とか岩を登ったら、次は岩の上でセルフビレイを取りますが、普段、土の上で練習する時は安定しているので手早く出来ませんが、実際に岩の上で行うときは、足場が安定しておらず、しかも下を見るとずいぶん高くて恐怖心が出て素早くセルフビレイをとることが出来ませんでした。

やつとセルフビレイを取れたら、次はセカンドビレイで、これも足場が悪いところでセットすることから、素早くできず時間が掛かってしまいました。

しかも、私は、この時に環付カラビナの安全環を開めるのを忘れてしまっていました。指導員の方に注意していただいたことで分りましたが、自分一人では気づきませんでした。もし気づかず、セカンドビレイをしていたら最悪、下から登っている人が転落してしまう可能性が出てきます。私は、この時に何も考えなくても自然と体が動くくらいまで練習をしないとけないと思いました。

懸垂下降で降りてからは、次にトップロープでクラックのある岩を登りました。

一年前にも三倉岳で数回上りましたが、クラックはジャミングという技術が必要になり全く登れませんでした。今回は、事前に本やインターネットでジャミングについて調べていきました。

実際に岩を登ってクラックで自分なりにジャミングをやってみましたが、やはりうまくいきませんでした。私は、何回も登って岩を触ってみて少しずつ分かっているのではないかと思いました。いつかは、クラックを登りたいです。

2年目のクライミングスク、7p1t仕事の都合等もあり、半分くらいしか参加できていませんが、参加できる時は何かを掴めるように必死にやっています。指導員の方には、いつも丁寧に教えて頂きとても感謝しています。これからのよろしくをお願いします。

### クライミング教室感想文

開催日 2016. 10. 2

場 所 天応(銀座尾根等)

### 身体で覚えないとダメ

クライミング教室 木原政和

インストラクターの皆様、真夏並みの暑い中ご指導していただきましてありがとうございました。

今日は指導員 7 名に対し 1 班 4 名、3 班 2 名という人数的にはマンツーマンの指導をしていただきました。午前中は銀座尾根でマルチピッチの練習を、午後



からはトップロープで、歯が痛いと言われ、ポピュラでクライミングの練習をしました。

マルチの後、base に帰るのにアクセスが濡れていたため、8 かんを使ったシングルロープでのクライムダウンで下ることになった。私のラッピングという概念は崖から降りるときに行うものという固定観念があったのですが、こういうことだったのかということが理解できました。

毎回、思うことでは、練習の最中、その時に行うべき行動がスムーズにできていないということです。ということで今回は、前日に堀に設置したアンカーを使ってロープを張りいろんなシチュエーションを想定し練習をしたつもりでしたが、また、同様の結果となっていました。なんと情けないことか。

要は、その場に来たら、何も考えなくても自然とできるようにならないと実際には使えないということ、つまり、体で覚えないとダメなんだということを痛切に感じました。

28 年度の講習も残すところ、あと一回となったわけですが、今の状況から判断すると、進歩なしのままで今年は終わってしまうことになってしまいました。

電車の中で、T さんとも話したのですが、仲間内で講習以外に自主トレするしかないねという話も出ました。できれば、今後、その自主トレができる環境を作っていきたいと思う次第です。

動作開始の前には必ず、ロープ、器具等の装着状況が間違いないかチェックする。

行動は確実に短時間で出来るようにすることが必要であり、一人の時間ロスが全体に連動して影響し、全体で大きな時間の無駄となり、危険度が大きくなる。セルフビレイは、原則、メインロープでとる。

カラビナは、いつも同じ方法（した内側から上に向かって）でハynes に装着。

ハーネスのセンターは極力いつもからにしておき、決まった場所に決まったものをかける。

岩場を登るときは、わずかでも出っ張りがあれば立てる。

ビレイしているときは、ロープに意識し、握った下の状態を魚釣りの時のように手で感じる。

危険な場所で危険と思わないことは危険である。常に次の行動は何をするのかを意識しておく。

セルフビレイをとる際は、次の作業を想定して長さを調整する。

## 事業計画 12 月 (案)

12・4 (日) 県民ハイキングやまびこ (崇徳山)

12・7 (水) 岳連例会⑫ (神峰山)

12・7 (水) 第 4 回普及部会

12・8 (木) 登山教室①②机上 (三篠公民館)

12・10 (土) ~ 11 (日) 登山教室② (大万木山 ~ 琴平山)

12・14 (水) 運営会議⑨

12・21 (水) スカイラン実行委員会③

12・24 (土) ~ 25 (日) 第 2 回全国高校選抜クライミング大会 (埼玉加須)

## 山の風景 68

横尾 ~ 瀬沢 2016.9.27

写真提供 小方重明 (広島三峰会)



## 登山指導者研修会報告

## 平成 28 年度「中高年安全登山指導者講習会・西部地区」に参加して

普及部 理事 小田 里子

期日：平成 28 年 10 月 8 日 (土) 10 月 10 日 (月・祝)

会場：徳島県美馬郡つるぎ町「ラ・フォーレつるぎ山」  
剣山周辺主催：独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立  
登山研究所 公益社団法人 日本山岳協会

後援：スポーツ庁、徳島県

主管：徳島山岳連盟

趣旨：中高年の体力等に応じた登山の知識や技能について習得するとともに研究協議を行い、中高年登山指導者の養成と安全な登山の普及を図る。

参加者：広島 2、山口 4、島根 3、鳥取 5、岡山 1、愛媛 3、宮崎 1、鹿児島 1、佐賀 1、熊本 1、兵庫 2、京都 3 滋賀 3、(以上 30 名)

役員 4、講師 3、徳島県スタッフ 27  
(以上 34 名) 計 64 名

## 一日目 10/8 (土) 開会式 13:00~

主催者及び主管挨拶

国立登山研修所 所長 宮崎 豊

中高年安全登山講習会が開催される趣旨、目的、経緯の説明。第 3 次登山ブームで登山人口増加と共に、登山事故も増えている。この研修でさらに安全登山を研鑽され、講師や他県の参加者との情報交換を図り意義ある研修にして頂きたい。

日本山岳協会常務理事 仙石 富英

中高年登山者の増加に伴い中高年の遭難も多くなり、予算を付けて頂き講習会を開く事ができた。

読図、気象、セルフレスキューの 3 本を柱に 3 年サイクルで講習している。情報交換等、持ち帰って頂きたい。

徳島県山岳連盟会長 原 秀樹

アクセスに不便な地での開催ですが、百名山の剣山で行うのが楽しいかな・と、この地にした。楽しんで下さい。

## 講義 1、「山岳ナビゲーションについて」

講師：村越 真 静岡大学教育学部教授

- ・道迷い遭難発生数は、男女とも 60 歳代が最多。
- ・低山と高山の遭難態様では、低山では圧倒的に道迷いが多く、高山では転倒が多い。しかもこの傾向は女性に顕著である。60 歳代において転倒が多い理由の一つとして、身体能力と登山意欲のアンバランスが考えられる。
- ・道迷い遭難の原因はナビゲーション技術や事前の地図によるルート確認の不備が最大である。
- ・一般に推奨されているベースプレートコンパスは、基本的な使い方を習得できないデメリットから、**村越真** 講師は、瞬時に**素早い**進路決定を可能にする R A-shin を推奨している。

○ラ・シン；羅針盤と村越真 から命名 定価=2,160 円 → 10 個まとめて購入では 1,800 円に。



## ○ラ・シンの使い方

地図を親指が進行方向になる様持つ磁石の地針を磁北線と平行になる方向が進行方向になる





## 低体温症対策セルフレスキュー演習 (7 頁左)

## 講義 2、「山岳遭難のヘリコプターによる救出事例と対応」

講師：猪子 裕 徳島県消防防災航空隊隊長

- ・運航体制 毎日運航（整備等による運航休日を除き 365 日）緊急運航の場合は、日の出から日没まで。
- ・徳島飛行場からの所要時間は、県内一円を約 25 分でカバーし、救急、救助、消火に従事してる。山岳救助の件数は救助総件数の 3 割を占める。
- ・注意点として、上空からの視認は困難なので、可能な限り詳細な情報提供、タオル等を振る、光で位置を知らせる。GPS の効果的な活用。

## 二日目 10/9 (日) 7:00～

「ナビゲーション演習」 場所：見ノ越～剣山 3  
～4 人の班員 10 組に分かれ演習

- ① 先読み：現在地の把握とルート維持に必要な情報を常にあらかじめ地図から読み取る。
- ② ルート維持：易しい場所でも、地形と方向を常に意識する。
- ③ 現在地の把握：地形図上に現在地の根拠として、谷筋の方向、尾根筋の方向、距離、斜度等を現地情報と地形図から確認
- ④ コンパスの使い方は、基本的には整置を行う。



村越真教授によるナビゲーション演習



## 「低体温症対策についてセルフレスキュー演習」

場所：剣山ヒュッテ上部

- ① 低体温症にならないために、予防が一番！
  - ・筋肉をつける。体型がやせ型、細い人が低体温症になり易い。日頃から体力維持向上に努める。
  - ・疲れた体を山に持ち込まない。行動前に十分食事を摂る。行動中はこまめに行動食を食べる。
  - ・体温調節のための衣服着脱はこまめにし、面倒くさがらない。
  - ・体調が悪くなりそうな時や、バテそうになった時は我慢や遠慮はせず、リーダーや仲間に伝える。
  - ・雨具の他、防寒着、レスキューシート、テルモスなど山で遭遇する事態を想定した個人装備の持参。
  - ・リーダーは避難場所を考えながら登る。引き返すポイントを考えながら登る。
  - ・共同装備として、ツェルト、バーナー、ガス、コッヘル、一定量の水、使い捨てカイロ等パーティーに必要な物を持つ計画にする。
- ② 低体温になった人への対処方法等
  - ・仲間の命を助けるべく持っている技術、知識及び経験を全て投入し懸命の努力をしましょう。

〔例 1、震えている段階〕

ザックの上等に座らせる。→ ツェルトを被る → 濡れた衣服を着替え、防寒着を着る → バーナー等で 暖を取る → エネルギーになる食料や、暖かい飲み物（糖分がある物。酒、コーヒーはだめ）摂取。

〔例 2、さらに容態が回復しない人には〕

レスキューシート、シュラフ、ツェルト等利用できる物総括して体を包み保温（胸、脇、鼠径部に湯を入れたペットボトルで体幹を温める。頭は帽子で保温。）→ 速やかに救助要請する「山岳遭難です！」を第一声に 場所、年齢、性別、意識状態、連絡先を伝える。

## 三日目 10/10 (月) 8:30～

## 講義 3、「中高年登山の現状と問題点」

講師：北村 憲彦 名古屋工業大学教授、  
国立登山研究所専門調査委員

## 1、最近の山岳遭難の概況

- ・遭難した登山者の登山スタイルでは、一般的な登山 67.3%、ハイキング 3.5%、岩登り 1.1%、沢登 1.3%、スキー登山 1.9% 難しくない所の事故が多い。
- ・遭難事故の様態別割合から、遭難者の半分以上は死かもしれない様態だが、40%の道迷

いは助かる。

- ・単独登山の行方不明・死者数は 17%、複数登山者では 7.6%、単独は死のリスクが高い。
- ・年齢別遭難者数では、山に行くチャンスが多くなった 60 歳以上が 52%。

## 2、中高年登山の背景と特徴

- ・中高年登山者の背景と様々な問題点として、自立していない登山客の増加。危険地帯に入る意識、準備、責任不足。
- ・風速 1m の体感気温は -1 度。風速 10m で体感気温は風冷効果で 10~20 度低下する。
- ・ずぶ濡れ（水は空気より約 20 倍伝熱。水の蒸発熱は、水の昇温熱の約 5 倍）風に当ててはいけない。  
濡れてはいけない。ツェルト、雨具はすぐ出せる様に！！
- ・暗くなるとバランスリスクが上がる。暗くならない内に対処する。
- ・登山中の体調管理は、ペアで様子を観察、管理する。
- ・日山協の山岳保険に入っていないと、ヘリが飛ばない事がある。

## 3、安全登山のための教育・人づくり

- ・登山客から自立した登山者とタフなチームへ → リーダーの育成が課題。

**研究協議 9:40~ 「道迷いを防ぐには」のテーマで、四班に分かれブレインストーミングで協議**  
主に、以下のような意見が多く挙がりました。

- ・事前の入念なミーティングで情報の共有が必要。計画書作り、役割分担、装備のチェックリスト、危険箇所や迷いやすいポイント・エスケープルート・U ターンポイント等の設定をして情報を共有する。
- ・機能的向上の為、普段には体力・食事のトレーニング、メンタルの向上、気象対応のシミュレーション練習、読図練習、積極的に講習会に参加する。
- ・登山中は、地図・コンパスによる現在地の確認と、今後のルート、地形の先読みをする。休憩とエネルギー補給で集中力を保つ。パーティーは分かれぬ。
- ・道を間違えたと思ったら、引き返す勇気を持つこと。
- ・下山後は登山を振り返り、反省を行う。

**閉会式** 日山協常務理事 仙石富英

「西部地区」の登山者は「東部地区」に比ツ

ェルトの装備が備えられていない。遭難者も「西部地区」が多い。危機感の認知が低いのでは・・・  
の話は大いに反省させられた。

**平成 29 年度 「中高年安全登山指導者講習会・西部地区」 予定は**

期日 平成 29 年 10 月 7 日 (土) ~ 10 月 9 日 (月)

会場 山口市秋穂二島「山口県セミナーパーク」日  
の山連山 陶ヶ岳周辺 講習 レスキュー

## 第 5 回県民ハイキング「恐羅漢山」報告

実施山名：恐羅漢山 (1,376.2m)

安芸太田町横川

実施日：2016・10・23(日) 参加：48 名

天 候：曇り 担当団体 広島山稜会

### コース

牛小屋高原駐車場:9:50→11:00 恐羅漢山山頂 11:55  
→13:00 夏焼のキビレ⇒13:25 牛小屋高原駐車場

### 実施概要

曇り空の中、立山ルートを歩きはじめリスト終点で休憩しました。深入山や十方山の尾根がきれいに見えました。ここから急登が続きましたが恐羅漢山頂には予定より早く到着しました。山頂で簡易トイレの使用法の説明を受けたのち、昼食としました。食後地図の見方を学びました。紅葉は今一つでしたが所々でウリハラカエデやヤマモミジ、クロモジなどの紅葉はきれいでした。下山は夏焼ルートを歩き、怪我もなく牛小屋高原に全員到着しました。広島山稜会 廣田忠彦  
立山コースを登る







写真は恐羅漢山頂上にて



## トピックス

早いもので 20 年・・・

「ネパールセミナー97」 毎年会合開く

前ひこばえ会長 富澤哲郎

1997年広島県山岳連盟が企画した広島県山岳連盟国際化プロジェクト「ネパールセミナー'97」に於いて、「メラピーク登山隊」「エベレスト・トレッキング隊」「アンナプルナ・トレッキング隊」の3隊が編成されました。

歳月の立つのは早いもので、既に20年が経とうとしております。その中で「アンナプルナ・トレッキング隊」の企画に早速応募したのが血気盛んな(?) 16人(男性7人女性9人)でした。登山の経験は豊かですが海外登山は初めての鳥合の衆の面々でしたが事故もなくトレッキングを楽しみました。その後、欠かさず事無く毎年春・秋と会合を持っています。今年も先日10月22日に11名の参加で会合を持ちました。

その席上、この会が20年も続いていることは矢張り岳連の企画が素晴らしかったことに加えて参加した皆様の人柄との事でした。そこで岳連の会報に報告することにした次第です。

右欄写真説明 上 10・22 会合の参加者

下 1997 年ネパールにて



プロジェクトは素晴らしいものでしたが20年も前のことですので改めてその概要を報告します。

隊員は池田敏美を隊長に16名で構成され、ツアーリーダーとしてアルパインツアーの米倉さん、現地からはサーダーのタマル・バサネットさん他4名のシェルパを始め、コック、キッチンボーイ、ポーターからなる隊でした。1997年4月25日トレッキング開始。村々を巡り、着生ランやシャクナゲのトンネルを潜り4月30日4,130mのアンナプルナ・ベースキャンプに到着、そして下山。5月7日カトマンズ発～関空そして広島着の日程でした。小雨が降る日が多かったものの雪道を踏み、雪の中のテント泊、テントから見上げるネパールの雪山の素晴らしさに感動したものです。事故もなく印象的なトレッキングでした。短い時間の旅でしたが隊員の絆は強いものになりました。その後20年になりますが毎年会合を持っているところです。

やはりこの背景には岳連の素晴らしい企画があったことによると全員感謝しているところです。あらためて国際化プロジェクトに敬意を表します。

## 岳連短信

## 1、寄贈御礼

筆影 11月号 N440 三原山の会

11月行事予定・やまを想う(伊藤良男)・八ヶ岳報告(藤田宗敬)・八ヶ岳に参加して(吾妻千恵子)・遙照山・竹林寺山報告(筒井友則) 遙照山・竹林寺山(南徳徳)・市民登山報告(積山鈴子)

会報(福山山岳会 平成28年11月号)

事務局便り・山行予告・山行報告

## 2、県民ハイキング実行委員会

委員長 山田雅昭(広島山岳会/JAC・理事長)

副委員長 村井 仁(広島県庁山の会・普及部長)

委員 野島信隆(マツダ山岳部・JAC・副会長)

豊田和司(マツダ山岳部・事務局長) 永津信吉(マツダ山岳部・理事) 宇山茂之(歩く会庄原・JAC・理事) 小田里子(JAC・普及部) 福永やす子(東広島山の会・普及部) 萬行馨(やまびこ 普及部) 森智昭(ひこばえ 普及部) 円石利恵子(JAC 普及部) 絹谷和子(JAC 普及部) 香川正臣(マツダ山岳部 普及部) 小林敏行(可部山岳会 JAC 普及部) 平田三男(可部山岳会 普及部) 谷断二(タンネン 普及部) 山元稔(三峰会 普及部) 高松仁道(福山山岳会 普及部) 杉本陽二(マツダ山岳部 JAC 普及部) 三村孝治(県庁山の会 普及部) 福原不二雄(福山山岳会 普及部) 尾道憲二(JAC 参与) 菊間秀樹(県庁山の会 9月担当) 松井(県庁山の会9月担当) 廣田忠彦(広島山稜会 10月担当) 横山(三原山の会 11月担当) 小方重明(広島三峰会 3月担当)

## 3、田部井淳子さん死去

1975年に女性として世界で初めてヒマラヤの最高峰エベレスト(8848m)に登頂した登山家の田部井淳子さんが20日午前10時腹膜がんのため、埼玉県内の病院で死亡した。77歳。福島県出身。

62年に昭和女子大を卒業。社会人の山岳会でトレーニングを積み、「女性だけで外国の山へ」との目的で

「女子登攀クラブ」を創設した。35歳でエベレストに登頂した後も活発に海外の山に挑み続け、92年には女性で世界初の7大陸最高峰登頂を果たした。95年に内閣総理大臣賞を受賞した。70を過ぎて年5、6回海外登山に出かけ、60を超える国・地域の最高峰、最高地点に登った。中国新聞朝刊に連載中の小説「淳子のてっぺん」のモデルとなった。(中国2016・10・23)

## 4、平成28年度

日山協競技部ブロック別研修会(中国ブロック)

実施要領 平成29年2月4日～5日

## 1 趣旨

スポーツクライミング競技の円滑・公正な競技運営、普及を図るため、クライミング審判員(以下「審判員」)及び競技運営、指導者(以下「運営研修」)の養成、指導並びに、国民体育大会山岳競技競技運営員(以下「運営員」)の養成、認定、研修等を目的に研修会を実施する。

なお、「運営研修」は本年度より3年次計画(注)で「指導者育成」を主に開催する。

本研修会受講者は、(公財)日本体育協会公認指導者義務研修の受講となる。さらに審判員研修受講者は、本協会クライミングC級審判員更新時の義務研修の受講となる。

(注)

年 度	運営研修「指導者育成」対象ブロック		
2016年度	関 東	東 海	近 畿
2017年度	北信越	中 国	九 州
2018年度	北海道	東 北	四 国

(アンチ・ドーピング研修：一時間程度：今年度は・北信越・中国・九州ブロックで実施)

2 主催 (公社) 日本山岳協会

3 主管 (一社) 広島県山岳連盟

## 4 日程

(1) 日山協公認クライミングC級審判員認定研修 (1泊2日)

受付:平成29年2月4日(土)13:00～13:30

研修:平成29年2月4日(土)14:00～2月5日(日)17:00

(2) - 2運営研修(競技運営、指導者研修)

受付：平成 28 年 2 月 5 日(日)8:30～9:00

研修：平成 28 年 2 月 5 日(日)9:00～17:00

(3) 競技運営員認定研修（国体運営役員、国体競技に興味がある者対象）

受付：平成 29 年 2 月 5 日(日)8:30～9:00

研修：平成 29 年 2 月 5 日(日)9:00～15:00

5 場所 「公益財団法人 広島青少年文化センター」  
〒735-0013 広島県安芸郡府中町浜田 3-11-1

TEL：082-282-2462 FAX：082-282-2485

宿泊 上記開催場所で宿泊

7 講師 日本山岳協会競技部常任委員

8 参加資格

(1) クライミングC級審判員認定研修

① クライミング競技会の運営に参加経験のある者

② 選手経験のある者で、所属山岳連盟会長から推薦された者

(2) 運営研修

① 日体協公認指導者

② スポーツクライミング競技指導者で、所属山岳連盟会長から推薦された者

(3) 競技運営員認定研修

① 所属山岳連盟会長から推薦された者

② スポーツクライミング競技運営に興味がある者

9 カリキュラム（開催日数は主管岳連に委ねます）

(1) 日山協公認クライミングC級審判員認定研修  
（10.5 時間）

・オリエンテーション 0.5 時間

・国際競技規則 9 時間

・クライミング競技運営に必要な事項

・筆記試験と回答説明 1 時間

(2) ー2 運営研修（競技運営、指導者研修（8 時間）

・オリエンテーション 0.5 時間

平成 28 年度岩手国体報 1 時間

・岩手国体からの競技規則等変更点 1 時間

山岳競技規則集の内容確認

1.5 時間

日山協、日体協関係等報告・意見交換 3 時間

・討議とまとめ 1 時間

(3) 競技運営員認定研修（5 時間）

・オリエンテーション 0.5 時間

・平成 28 年度岩手国体報告 2 時間

・日体協、日山協と国体山岳競技規則説明

2 時間

・討議とまとめ 0.5 時間

10 参加費 2,000 円（全員）＋別途以下

宿泊の方 ￥9,500（会議室賃料￥3,000 夕食、朝食  
昼食 3 食付）

日帰りの方 ￥4,000（会議室賃料￥3,000 2/5 昼食付）

\* 競技運営研修、競技運営員認定研修、C 級審判員認定  
研修とも国体山岳規則集  
（平成 27 年 5 月改訂版）代 1,000 円；消費税が別途必  
要です。

11 申込先

別紙申込書に必要事項を記入の上、平成 28 年 12 月 20  
日（火）までに下記へ郵送・FAX あるいはメールでお送  
りください。

（一社）広島県山岳連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2-4-17

TEL:082-296-5597 FAX:082-296-5597

E-mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

12 内容の問合わせ先

（一社）広島県山岳連盟 競技部長 佐藤 建

TEL:090-1684-3536

E-mail: zws00577@nifty.com

## 5、たけはら里山ハイキング開催要項

### 主 催 竹原山岳会

竹原市港町 2 - 14 - 30 日向釣具センター内

☎ 0846 (22)6131 Fax) 0846 (22)6132

1. 趣 旨 身近な里山の自然や歴史探訪しながら  
ハイキング、共同調理、食事、レクレーション等を  
共にする事による市民の健康増進と相互の親睦を  
深めることを目的とします。

2. 後 援 竹原市教育委員会・(社)竹原市観光協  
会・NPO 法人バンブースポーツクラブ・  
竹原郷土文化研究会

3. 期 日 平成 28 年 11 月 27 日(日)（少雨決行）

4. 集 合 午前 8 時 30 分：竹原小学校体育館前  
（駐車可能）

5. 解 散 午後 3 時 30 分(予定)：竹原小学校体育  
館前

6. コース 「往路」：9 時出発



A コース:竹原小学校→塞の峠→鎮ヶ山→南口→高崎  
地蔵→東山→バンブー公園(約 3.81 km)

B コース:竹原小学校→鎮海山→鎮ヶ山→南口→高崎  
地蔵→バンブー公園(約 2.56 km)

「復路」: 14 時出発(約 2.18 km)

全員・バンブー公園→高崎地蔵→楠谷広場→竹小の見  
える丘→郷賢祠 →竹原小学校→解散

7. 参加費 一般 800 円、小学生 500 円

( 食費、保険料、等 )

未就学児童は無料としますが、保険には加入します。

8. 申し込み ☆(社)竹原市観光協会 竹原市中央

1-1-10 ☎0846(22)4331

☆竹原山岳会事務局 竹原市港町 2-14-30

☎0846(22)6131

☆メンズカメイ 竹原市中央 2-6-22、

(当山岳会会員) ☎0846(22)2040

締切は 11 月 12 日(土) 17 時とします。

9. その他 昼食は栗と芋入りご飯・里芋汁を予定。  
お茶、水等の飲み物は各自持参願います。  
障害保険に加入しますが、現地では応急  
手当のみとします。

雨天時の判断は当日 7 時以降に事務局へ  
問い合わせ下さい。

竹原小学校に駐車をお願いします。「道の  
駅」の駐車は控えて下さい。

※鎮ヶ山頂上に山の日記念ケルン(石の塔)  
を作成します。恐れ入りますがこぶし大  
の石ころを 1 つ以上準備していただきケ  
ルンの作成にご協力ください。

## 6. これからの県民ハイキング (予定)

2017・1・22 (日) 岳浦山(倉橋) ひこばえ担当

2016・2・19 (日) 日浦山(海田) マツダ親和会担当

2017・3・26 (日) 呉婆々宇山(府中) 三峰会担当

## フォト俳句

シンフォニーさやかに奏で 金の風

俳句・写真 江種幸男(福山山岳会)



## 編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行して  
います。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など  
気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を  
記入下さい。写真説明、写真提供者を記入ください。  
編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了  
承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送  
下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方  
は岳連事務局までメールアドレスをお知らせくだ  
さい。

題字デザイン 今村みずほ 編集 仲井正美